

太陽石油株式会社



2023.10.1,000
本冊子は環境にやさしい紙を使用しています。

この星と人のチカラに。

Corporate Brochure

SOLATOは
未来を創るために挑戦し続けます



の ら れ た 想 い

A photograph of a sunset or sunrise over a mountain range, with a warm orange and yellow glow transitioning into a cooler blue and green at the top.

独自の発想とチャレンジ
された想いを胸に、"総合
てまいります。 同じ
太陽石油は

と、明日を意味する
す。

ひとりが
ちで

精神である「社是」の精神に則り、企業として
価値観を「企業理念」として制定しております
に向けて企業活動を実践するにあたっての拠
指針」を定めております。

是社

太く輝

わたしたちは、総合エネルギー企業として、地球環境との調和を図り、安心と安全を提供する豊かな社会づくりに貢献します。

わたしたちは、事業活動を通じて、社会のみなさまとの融和を図り、積極果敢な挑戦による新たな価値を創造し、持続的に成長する企業を目指します。

太陽石油は、次

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| 安全操業 | 職場と地域の安全を最優先し、安全・安定操業に努めます。 |
| 環境保全 | 環境負荷の低減と省資源・省エネルギーに努め、地球環境の保全に取り組みます。 |
| 地域貢献 | 良き企業市民として、地域の発展に貢献します。 |
| 顧客満足 | 高品質の製品を安定的に提供し、顧客の満足と信頼を獲得します。 |
| 個人尊重 | 社員一人ひとりを尊重し、働きがいのある職場を提供します。 |
| 法令順守 | 法令や社会・社内規範を順守し、良心に従って行動します。 |
| 透明性 | 広く社会とのコミュニケーションを図り、事業活動の透明性を高めます。 |

一貫操業体制を確立し、持続的な成長を目指します。

太陽石油は、石油の輸入から石油製品及び石油化学製品の製造・販売にいたる
“一貫操業体制”を確立して、持続可能な経営を実現する企業を目指しております。

輸入



環境に優しい
低硫黄原油を中心
に輸入。

精製・製造



良質で、環境に優しい製品を。

私たちの暮らしや産業活動に欠くことのできない石油の多くは、中東や東南アジア等の産油国から、大型タンカーにて日本に輸入されます。太陽石油では、サウジアラビア、UAE、アメリカ、マレーシア、ブルネイ、インドネシア等の様々な産油国から、環境に優しい低硫黄原油を中心に輸入し、安全に四国事業所へと運んでおります。

太陽石油では、多様な石油需要に応えるべく、常に高品質で環境に優しい石油製品及び石油化学製品を生産し、安全でかつ安定的に製品を供給するよう、日夜努力を続けております。四国事業所では、ISO9001(品質マネジメントシステム)及びISO14001(環境マネジメントシステム)を取得しており、品質確保・維持並びに環境に配慮した操業に努めております。

供給



安全・安定的に供給する使命。

太陽石油はお客様の様々なニーズに応えるため、地球に優しい製品を安定供給しております。毎日の暮らしのためだけでなく、産業活動の中でも広く活用される石油製品を、安全・確実にお客様へお届けするため、生産設備の増強・合理化、流通施設の設備拡充に取り組み、安定供給に万全の体制で取り組んでおります。

販売



質の高いサービスを提供。

太陽石油は、お客様に選ばれ、満足していただけるサービスを提供できるよう、あらゆるシーンでお客様目線の付加価値サービスを実行できる人財を育て、顧客満足を実践するSOLATOサービスステーションづくりに積極的に取り組んでおります。

太陽石油が運んでいるのは、「安心」です。

環境に優しい低硫黄原油を中心
に輸入しています。



太陽石油は、サウジアラビア、UAE、アメリカ、マレーシア、ブルネイ、インドネシア等から、環境に優しい低硫黄原油を中心輸入しており、効率的かつ安全な輸送を心がけております。

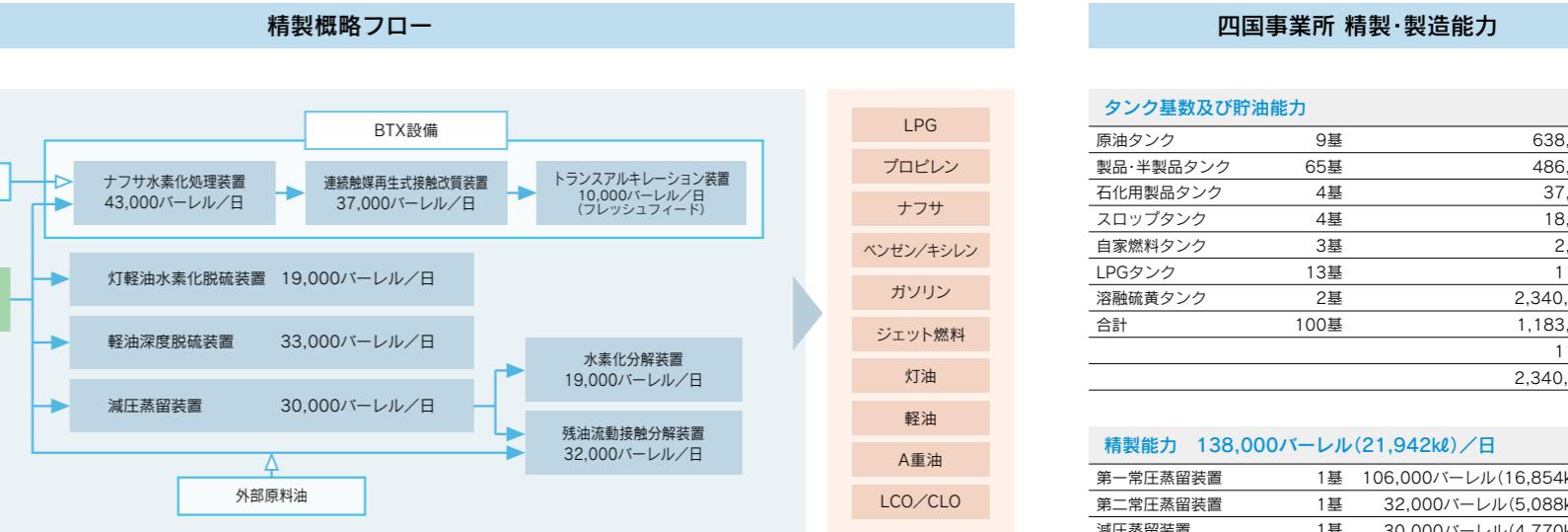
四國事業所／石油精製設備



を最優先に、多様な石油ニーズに応えます。 総合エネルギー企

の役割と、石油製品・石油化学製品の多様な
定的な操業でお客様の期待に応えます。

J. J. PG・ナフサ・灯油



水素化分解装置

残油流動接觸分解

三

減圧蒸留装置で残渣油から分離された減圧軽油を、水素ガスと混合し、高温高压雰囲気で触媒と反応させ、高品質のナフサ・灯油・軽油を製造します。

原料である重油を高温低圧雰囲気で触媒と接触させることで分解し、プロピレン・LPG・ガソリン留分を製造します。

タンク基数及び貯油能力		
LPG	原油タンク	9基
プロピレン	製品・半製品タンク	65基
ナフサ	石化用製品タンク	4基
ベンゼン/キシレン	スロップタンク	4基
ガソリン	自家燃料タンク	3基
ジェット燃料	LPGタンク	13基
灯油	溶融硫黄タンク	2基
	合計	100基
		638,486,183,2,340,1,183,1
		2,340

精製能力 138,000バーレル(21,942k)

精製能力(1,000,000 バーレル(US) / 日)			
A重油 LCO/CLO	第一常圧蒸留装置 第二常圧蒸留装置 減圧蒸留装置 水素化分解装置 水素回収装置 灯籠油水素化脱硫装置 軽油深度脱硫装置	1基 1基 1基 1基 1基 1基 1基	106,000/バーレル(16,854㎘) 32,000/バーレル(5,088㎘) 30,000/バーレル(4,770㎘) 19,000/バーレル(3,021㎘) 1,036,800N 19,000/バーレル(3,021㎘) 33,000/バーレル(5,247㎘)

1

主要設備		概要	
ナフサ水素化処理装置	1基	43,000バーレル(6,837t)	
連続触媒再生式接触改質装置	1基	37,000バーレル(5,883t)	(内石油化学用 19,000バーレル)
芳香族蒸留装置	1基	34,500バーレル(5,486t)	
芳香族抽出装置	1基	11,000バーレル(1,749t)	
水素回収装置	1基	2,054,400N	
トランクアルキレーション装置	1基	10,000バーレル(1,590t)	(フレッシュユーフ)
第一芳香族蒸留装置	1基	19,000バーレル(3,021t)	

RFCC設備		
残油流動接触分解装置	1基	32,000バーレル(5,088m ³)
プロピレン精製装置	1基	7,100バーレル(1,129m ³)
アルキレーション装置	1基	7,200バーレル(1,145m ³)
分解ガソリン脱硫装置	1基	17,000バーレル(2,703m ³)

総合エネルギー企業として、「社会」をしっかりと支える。

太陽石油は、お客様のニーズに応え、国内はもとより海外にも輸出しております。



太陽石油はお客様のさまざまなニーズに応えるため、地球に優しい製品を安定供給しております。毎日の暮らしのためだけでなく、産業活動の中でも広く活用される石油製品を、安全・確実にお届けするため、生産設備の増強・合理化、流通施設の設備拡充に取り組み、安定供給に万全の態勢で取り組んでおります。



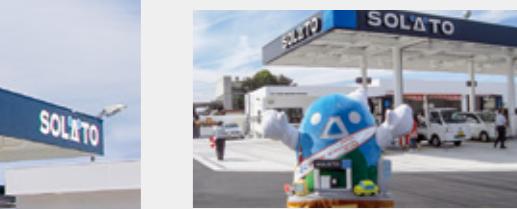
お客様との絆を育み、新たな価値を展開。

お客様に選ばれ、支持されるサービスステーションづくりに取り組んでいます。

フルサービスでもセルフサービスでも、接客サービスの基本となるのは、サービスステーションのスタッフに変わりありません。お客様からの評価を獲得し、満足していただくためには、質の高い接客や、幅広い提案力が必要です。あらゆるシーンでお客様目線の付加価値サービスを提供し、顧客満足を実現できるSOLATOサービスステーションを目指していきます。



各種研修会・勉強会を通したサービスステーションスタッフの人財育成や販促活動による系列SSの販売サポートなど、顧客満足を実践するサービスステーションづくりに取り組んでいます。



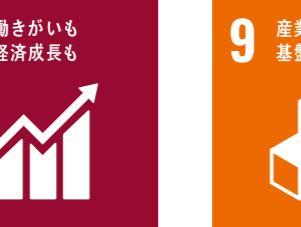
ESG重点課題への取り組みを通じてSDGs達成に貢献します。

当社は、ESG・SDGs基本方針を策定し、環境問題や様々な社会課題の解決に貢献することを目指します。

当社のESG・SDGs基本方針

当社は、ESGに関する重点課題への取り組みを通じて「社会・ステークホルダーとの“共存共栄”」を実現・継続しながら、「SDGs」の達成に貢献する。

<当社が貢献するSDGs>



グリーンリファイナリー事業の推進



国内初の森林資源を活用したグリーンリファイナリー事業として、主に四国内の未利用森林資源の収集、木質バイオマスの分解油化によるバイオ原油の製造、バイオ原油を原料としたバイオ製品の製造に至る一連のサプライチェーンの構築に向けた検討を進めています。

国産SAFの普及・拡大に向けた取り組み



国産SAF(持続可能な航空燃料)の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に加盟。当社は、株式会社CO2資源化研究所と共同で、木質バイオマスや水素・二酸化炭素を原料とするバイオジェット燃料の製造に関する研究を進めています。

廃タイヤのケミカルリサイクルに関する共同研究



環境エネルギー株式会社の保有する廃プラスチックの分解油化技術と当社の石油精製に関する知見を融合し、スマートリサイクル以外に再利用が困難であった廃タイヤ等の廃棄物を、再び石油化学基礎原料等として活用するケミカルリサイクルの実現を目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大規模太陽光発電プロジェクトへの参画



合弁会社「SDTソーラーパワー株式会社」を設立し、再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。山口事業所の敷地内に設置されたSDTソーラーパワー山口発電所では、年間約2,000万kWh(一般家庭3,880世帯の年間消費量に相当)の発電を行っています。

環境に配慮したモビリティの追求



セルフ空港給油所(愛媛県松山市)では、太陽光パネル及び、非化石証書付電気により利用する電気の全てを実質再生可能エネルギーで賄っています。また、四国事業所では、オフグリッド型ソーラーカーポートを設置し、EVシェア事業に向けた実証を行っています。

水産養殖における昆虫飼料の研究開発



昆虫は持続的に生産可能な食料、飼料として注目が高まっています。爆発的な人口増加等による将来の食糧危機を救う手段として、愛媛大学や愛媛県内の水産会社と連携して、水産養殖の持続化に資する養殖用飼料の開発と社会実装に向けた研究を進めています。

環境保全に関する地域貢献活動



高知県が提案する「環境先進企業との協働の森づくり事業」及び、愛媛県が提案する「企業の森づくり活動」に参画。高知県の町と愛媛県今治市において「太陽が育む森」と名付けた協定森の整備事業支援や社員有志による植林等のボランティア活動を続けています。

次世代を担う人材育成に関する地域貢献活動



愛媛大学において「太陽石油奨学金」を創設。返済不要の給付型の奨学金により、学生の経済的負担を軽減し、学業や研究に専念できる環境づくりを支援しています。製造業が多い愛媛県において、特に技術分野での人材育成に貢献することを目的としています。

コンプライアンス・リスク管理の取り組み強化



当社では、社長を委員長とするコンプライアンス・リスク委員会を開催し、事業活動におけるリスクの適切な管理やコンプライアンスの監督に努めています。また、毎年、コンプライアンス強化月間を設け、コンプライアンス意識の醸成に係る教育等を強化しています。

社会の暮らしを支える挑戦は110年を越え、さらに新しい未来へ。

当社は、社会インフラ機能維持になくてはならない石油・石油化学製品を取り扱う企業として社会の皆様の生活を支えるという重大な責任を負っていると同時に、安全、環境問題については、常に社会の皆さまから厳しい評価をいただく立場にあると認識しています。エネルギー供給における社会機能維持者としての企業の社会的責任を追求しながら、企業理念のもとでこれからもさまざまなステークホルダーの皆様に支持される企業を目指して参ります。

創成期 1908~1943

当社の前身である青木石油店の創業から太陽石油の設立まで

1908年 (明治41年)	9月 初代 青木繁吉が高知県高岡郡(現土佐市)で青木石油店を創業
1915年 (大正4年)	2月 愛媛県八幡浜市に移転
1918年 (大正7年)	1月 ライジングサン九州西戸崎製油所から原料供給を受け灯油精製を開始
1923年 (大正12年)	8月 ヘッグマン蒸留釜で石油精製開始
1930年 (昭和5年)	5月 青木石油株式会社に改称 資本金2万円
1938年 (昭和13年)	10月 工場を愛媛県越智郡亀岡村(現四国事業所)に移転
1941年 (昭和16年)	2月 青木石油・ミカド製油・松岡石油の精製部門を統合、太陽石油(株)を発足 東京市芝区三田豊岡町に本社設置 資本金100万円
1943年 (昭和18年)	7月 本社を愛媛県八幡浜市に移転 資本金を400万円に増資

戦後復興期 1949~1964

本格的な自主生産の開始時期

1949年 (昭和24年)	12月 GHQより太平洋岸製油所の再開許可あり、石油精製再開に向け設備建設に着手
1951年 (昭和26年)	2月 石油精製が許可され、シェル石油より500バーレル/日を受託し精製開始
1953年 (昭和28年)	7月 資本金を4,800万円に増資 自社精製開始

成長期 1965~1991

製油所の高度化事業が本格的にスタートした時期

1965年 (昭和40年)	9月 青木繁良が三代目社長に就任
1967年 (昭和42年)	7月 資本金を1億円に増資
1969年 (昭和44年)	4月 石油連盟に加盟
1970年 (昭和45年)	12月 資本金を4億円に増資
1974年 (昭和49年)	9月 常圧蒸留装置設備能力69,000バーレル/日に増強
1975年 (昭和50年)	7月 菊間製油所(現四国事業所)JIS表示許可工場となる
1976年 (昭和51年)	7月 90日石油備蓄体制確立
1977年 (昭和52年)	1月 マレーシア国営石油会社(ペトロナス)と、わが国初のDD原油取引開始
1979年 (昭和54年)	10月 シンガポールに現地法人太陽インターナショナルプライベートリミテッドを設立
1981年 (昭和56年)	11月 現本社所在地(東京都千代田区)に移転
1982年 (昭和57年)	3月 石油地下備蓄実証プラントが菊間製油所構内に完工、当社が実証運転を担当

発展期 1996~2019

特石法廃止に伴う業容拡大期

1996年 (平成8年)	7月 本社機能の一部移管に伴い、菊間製油所を四国事業所に改名
1998年 (平成10年)	10月 東京工業品取引所先物市場の一次会員に加入 12月 四国事業所ISO9002認証登録
1999年 (平成11年)	10月 河井國士が四代目社長に就任
2002年 (平成14年)	3月 四国事業所ISO14001認証登録 7月 当社子会社を統合し太陽テクノサービス株式会社を発足
2003年 (平成15年)	8月 常圧蒸留装置設備能力120,000バーレル/日に増強 10月 太陽石油化学(株)設立 12月 三井化学(株)より山口スチレン工場買収
2004年 (平成16年)	1月 山口事業所を開設 12月 当社子会社を統合し太陽石油販売株式会社を発足
2006年 (平成18年)	6月 岡 豊が五代目社長に就任
2008年 (平成20年)	3月 四国事業所新事務所竣工 9月 創業100周年 新ブランド「SOLATO」の立ち上げ、シンボルマーク発表、SSデザイン刷新 12月 新陸上出荷設備竣工



商 号 太陽石油株式会社 Taiyo Oil Company, Limited

資 本 金 4億円(2023年3月31日現在)

設立年月日 1941年2月27日

事 業 内 容

- 石油の輸出入業、精製業及び販売業
- ベンゼン、キシレン等の石油化学系基礎製品の
製造、加工および販売

主 要 取 引 先

- サウジアラムコ(サウジアラビア) 三菱商事
- ペトロナス(マレーシア) 三井物産
- ブルネイシェル(ブルネイ) Lotte Chemical
- 石油資源開発 東ソー
- INPEX 住友化学
- 兼松
- 阪和興業

主 要 銀 行

- 日本政策投資銀行 三菱UFJ銀行
- 三井住友銀行 みずほ信託銀行
- みずほ銀行 三井住友信託銀行



- 本 社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル15F
TEL 03-3502-1601(代表)
- 本 社 分 室 〒790-0001 愛媛県松山市一番町1-15-1 グランティア一番町ビル8F
TEL 089-932-1602(代表)
- 四国事業所 〒799-2393 愛媛県今治市菊間町種4070-2
TEL 0898-54-2500(代表)
- 山口事業所 〒759-0205 山口県宇部市大字西沖ノ山字西沖13-3
TEL 0836-41-4154(代表)
- 中日本支店 〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4-14-3 リゾートトラスト御堂筋ビル7F
TEL 06-6366-1012(代表)
- 中 国 支 店 〒730-0016 広島県広島市中区幟町13-11 明治安田生命広島幟町ビル7F
TEL 082-211-4488(代表)
- 九 州 支 店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前2-19-24 大博センタービル11F
TEL 092-415-1255(代表)
- 四 国 支 店 〒790-0001 愛媛県松山市一番町1-14-7 フジコビルF 5F
TEL 089-943-5252(代表)
- 石油事業部 〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-22-10 那覇第一生命ビルディング 7F
沖縄総合事務所 TEL 098-917-5739(代表)

関連会社

国 内

太陽テクノサービス株式会社

本 社	愛媛県今治市菊間町種4070-2
設 立	1960年8月
資 本 金	9,500万円
営 業 内 容	海陸運輸業、石油受入払出業、建設請負業
T E L	0898-54-4800(代表)

旭陽タンカー株式会社

本 社	東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル 4F
設 立	1969年3月
資 本 金	7,000万円
営 業 内 容	海運業
T E L	03-3580-6928(代表)

太陽石油販売株式会社

本 社	愛媛県松山市宮町186番地4 松山駅前ビル6F
設 立	1970年2月
資 本 金	8,500万円
営 業 内 容	石油製品販売業、自動車整備事業、損害保険代理店業
T E L	089-904-9200(代表)

日本地下石油備蓄株式会社

本 社	東京都港区三田3-4-10リーラヒジラカ6F
設 立	1986年5月
資 本 金	2億円
営 業 内 容	石油備蓄基地の運転および保守管理の受託
T E L	03-4212-4001

南西石油株式会社

本 社	沖縄県中頭郡西原町字小那霸858
設 立	1968年5月
資 本 金	1億500万円
営 業 内 容	石油受入払出業、油槽所管理運営
T E L	098-882-9555(代表)

太陽インターナショナル プライベート リミテッド(Taiyo International Private Limited.)

本 社	20 Anson Road, #09-03 Twenty Anson Singapore 079912
設 立	1979年10月
資 本 金	S\$150万
営 業 内 容	原油・石油製品の販売、輸出入
T E L	Singapore (65)6222-2912(代表)

関連会社出資比率

